

3. 令和3年度事業の概要

千葉県上水道事業は昭和9年に創設され、昭和11年から給水を開始して以来、県勢の発展に合わせ、数度の事業拡大を行ってきた。

令和3年度末現在、給水区域は県北西部地域の11市（千葉市、市川市、船橋市、松戸市、成田市、習志野市、市原市、鎌ヶ谷市、浦安市、印西市、白井市）に及び、県人口の約半数に当たる約300万人の給水人口は、東京都、横浜市の上水道事業に次いで全国第3位の規模となっている。

この間、安全かつ良質な水を安定してお客様にお届けすることを最大の使命として、安定水源の確保、浄・給水場や管路等の整備・更新、危機管理体制の充実、業務効率の向上や経営体質の強化等に取り組んできた。

しかし、近年の県営水道を取り巻く環境は大きく変貌しつつあり、頻発する自然災害、将来的には人口減少社会の到来、さらに施設や管路の更新需要の増大などもあり、様々な課題に対応していく必要がある。

そのため、令和3年度から令和7年度までの水道事業経営の基本計画である「千葉県営水道事業中期経営計画」を令和3年3月に策定した。

この計画では、基本理念「いつでも、安全でおいしい水を安定して供給し、お客様が安心し、信頼を寄せる水道」の実現に向けて、直面する経営課題に対処していくため、「『強靱』な水道の構築」、「『安全』な水の供給」及び「お客様からの『信頼』の確保」を3つの基本目標として、必要な施策や取組を体系化した。計画の初年度に当たる令和3年度の主な取組状況は以下のとおりである。

(1) 千葉県営水道事業中期経営計画

基本目標1 「強靱」な水道の構築

安定給水の確保として浄・給水場等及び管路の更新・整備に取り組み、ちば野菊の里浄水場（第2期）施設整備における洗浄排水池築造工事が完成した。災害に強い施設整備の推進として、浄・給水場等及び管路の耐震化の推進や停電・浸水対策の強化等を実施し、湾岸埋立地域における管路の耐震化を推進したほか、千葉分場、幕張給水場及び妙典給水場の浸水対策工事が完了した。また、危機管理体制の充実として、緊急時に備えた体制の充実等に取り組み、非常時対応訓練等を実施することで、災害対応力の向上を図った。

基本目標2 「安全」な水の供給

安全で安心な水づくりとして水源の監視・保全に取り組み、定期及び臨時の水源水質調査等を実施した。また、おいしい水の供給として柏井浄水場及び園生給水場の配水区域での残留塩素低減化試験等の技術的な取組や、おいしい水懇話会の開催等のお客様との取組を実施した。

基本目標3 お客様からの「信頼」の確保

お客様サービスの向上として、支払方法の多様化や手続き等のオンライン化を推進するための実施計画を策定したほか、大規模事業体の責務と社会貢献として、浄水発生土等の再資源化等を実施し、環境負荷の軽減に向けた取組を推進した。また、運営基盤の強化として、職員の育成・確保及び能力開発等に取り組み、実践的な技術研修の実施による技術継承の推進を図った。

(2) 給水及び業務状況

令和3年度の年間給水量は、3億1,875万6,899立方メートルで、前年度と比較して351万598立方メートルの減となった。なお、一日平均給水量は87万3,307立方メートルであり、一日最大給水量は令和3年8月21日の96万390立方メートルであった。給水人口は前年度と比較して2,531人増の306万4,635人であり、給水戸数は153万9,353戸、給水栓数は146万1,160栓となった。

(3) 経理状況

収益的収支の状況は、収入が827億622万2,154円、支出が712億9,661万5,660円であった。なお損益については、収益が761億3,693万9,758円、費用が676億1,789万4,737円であり、純利益が85億1,904万5,021円であった。

資本的収支の状況は、収入167億5,004万6,979円、支出が472億9,394万1,855円であった。なお、収支の差引きで305億4,389万4,876円の不足が生じたが、この不足額は当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額28億9,056万1,473円、減債積立金80億7,596万7,739円、過年度分損益勘定留保資金195億7,736万5,564円で補てんした。